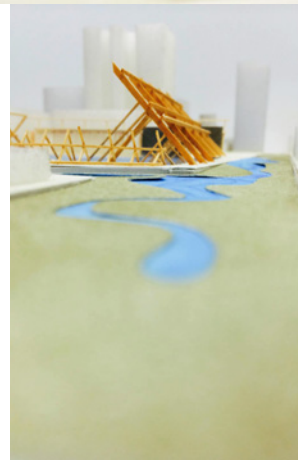
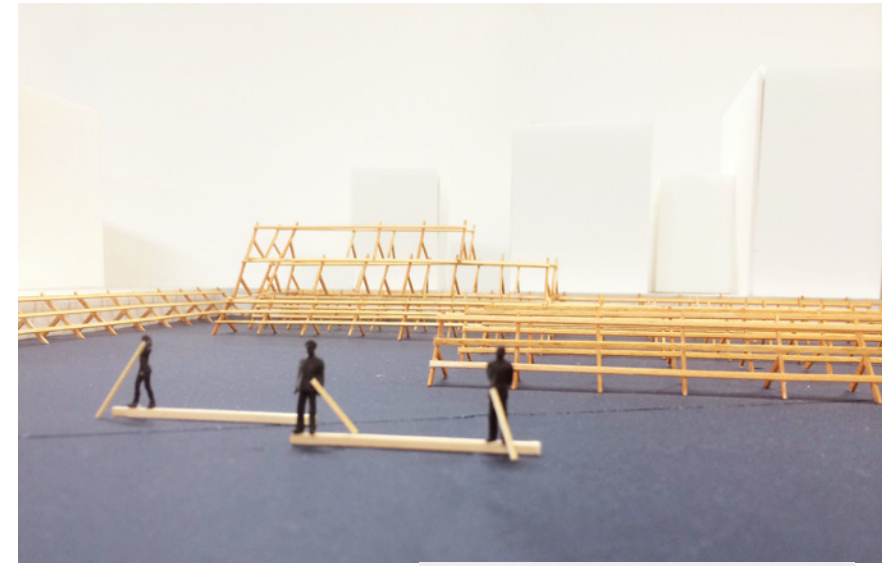
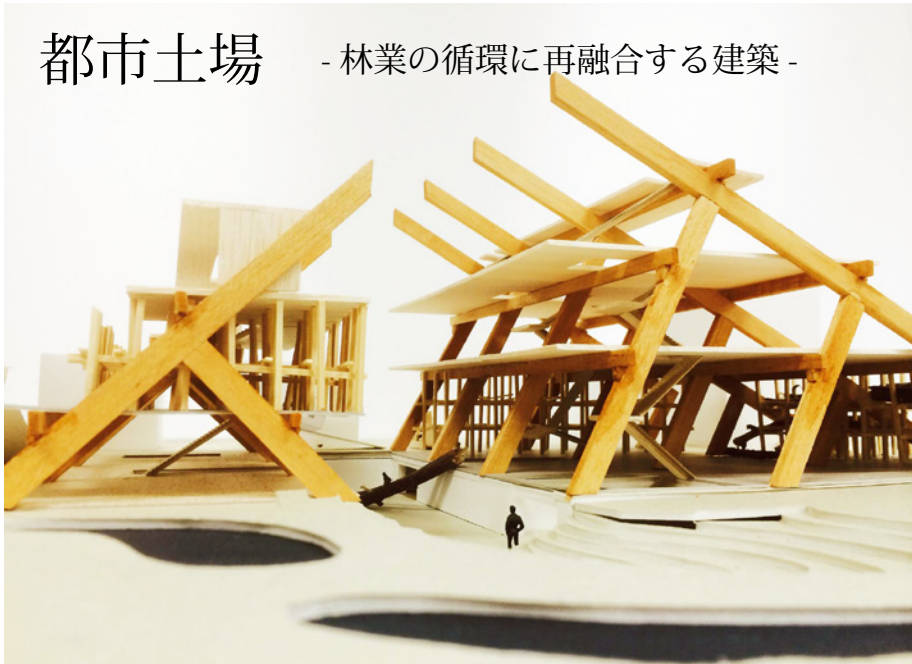
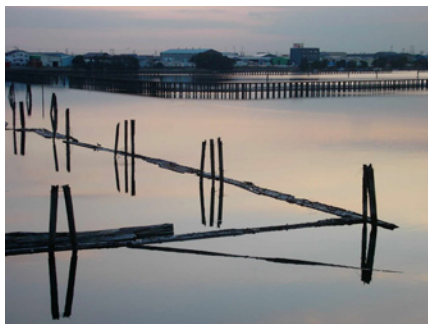


都市土場 - 林業の循環に再融合する建築 -



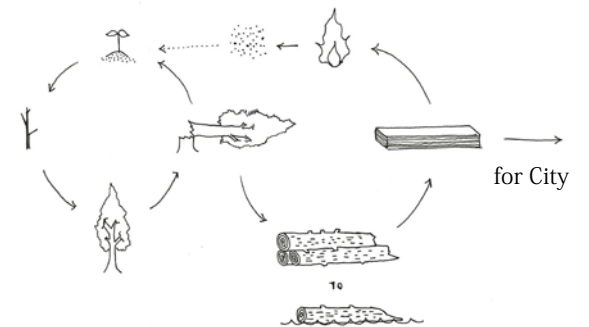
1. 計画背景 材木が都市に届けられなくなった今

現在の新木場の貯木場を訪れる度、空虚な水面が広がっている。この広大な水面が伐った木で埋め尽くされていたかつての風景は、木材価格の低迷や海外輸入材市場の拡大により姿を消した。いつしか国産の材木が都市に届けられなくなった。伐れば伐るほど赤字となる木材産業の現況は、林地所有者の関心を無くし、適度に間伐や伐採がなされない森林の連鎖が里山の荒廃を招いている。里山の林業と都市における木材消費の関係性を再構築するための建築について考える。



2. 目的 新しい木の文明

人間が古来より木と親しかったことについて、川添登は著書「木の文明の成立」において、木がもともと持っている「生まれやがて朽ち果て土に還る」という生命的循環と、林業や木材業といった人々の生活を支える生業やそれによって造られる木造建築の周期が合致していたことによるのではないかと推察し、新しい木の文明の構築を示唆する。私はこの長らく人と木が築き上げてきた循環の構図に着目し、里山と都市という双方の分断された関係性を修復するため、もう一度都市に材木を集め、再び建築を林業と木材業の循環へ融合させることを目指す。



3. 敷地選定と形態操作 二つの過去の弓|用

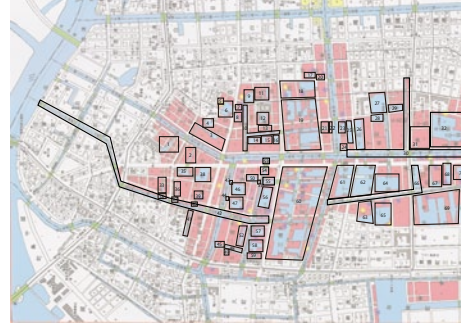
3 - 1. 木場の堀跡



都市における木材業の過去の紐解きから、材木を集めるに相応しい敷地として、江戸時代より材木流通の玄関口であった江東区木場を選定する。材木問屋が木置場をこの地に移してから約270年もの間、長きに渡る開削と埋め立てによって多くの材木輸送用水路と堀が造られた。

この堀は昭和40年代に街一帯に広がるも、新木場へと貯木場が移転した昭和49年から次々と埋め立てられ姿を消した。まずは、この堀跡を材木が集まるポテンシャルを持った空間として再現することから始める。

(1)



参考資料『木材大事典 185 種：日本で中に入る木材の基礎知識を網羅した決定版』村山忠親、村山元春 p235

調査手順は以下の通り

- (1) 資料を元に堀の数がピークであったと見られる昭和43年の地図の堀跡をナンバリングしたところ、全70箇所に及んだ。
- (2) それらを現在の地図と照らし合わせ、現況の土地利用について調査した。現在私用地であったり公用地であったりと用途は様々である。
- (3) 現在公用地でありかつ、ネットワークが構成されていた堀跡を計画地として選定した。

堀跡の正確なスケールを出来るだけ抑えるために、より詳細な地図として昭和42年の住宅地図をトレースし、現在の地図に重ね合わせた。

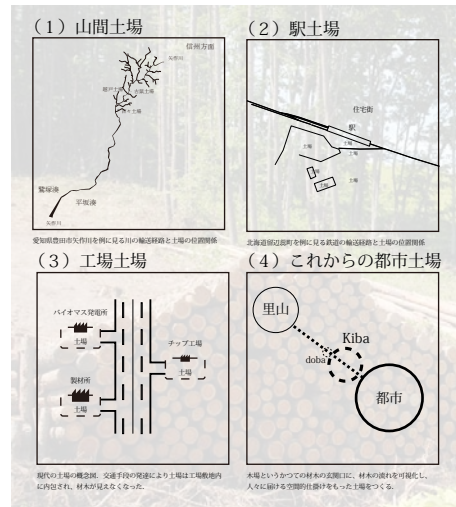
(2)



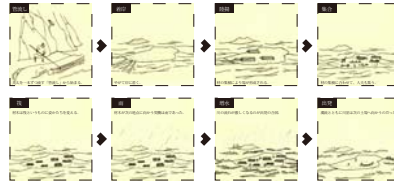
(3)



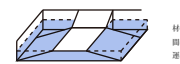
3 - 2. 山間の土場



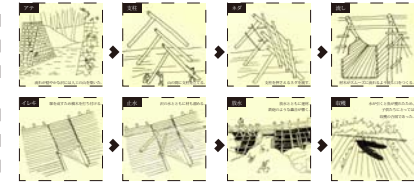
(い) 愛媛県西条市 古川土場



出発の岸辺



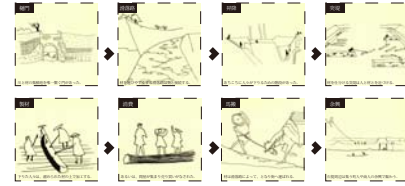
(ろ) 徳島県那賀郡木頭 出原谷の鉄砲堰



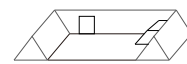
運材の堰



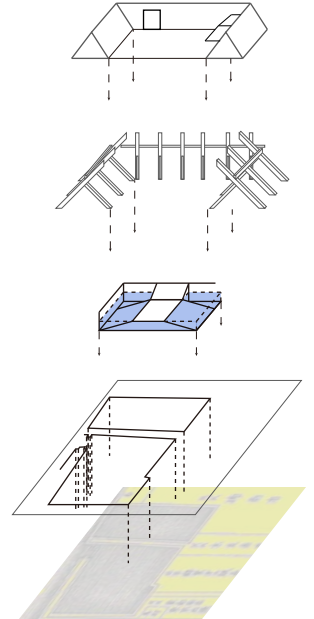
(は) 愛知県豊田市 百善土場



集散の石堤



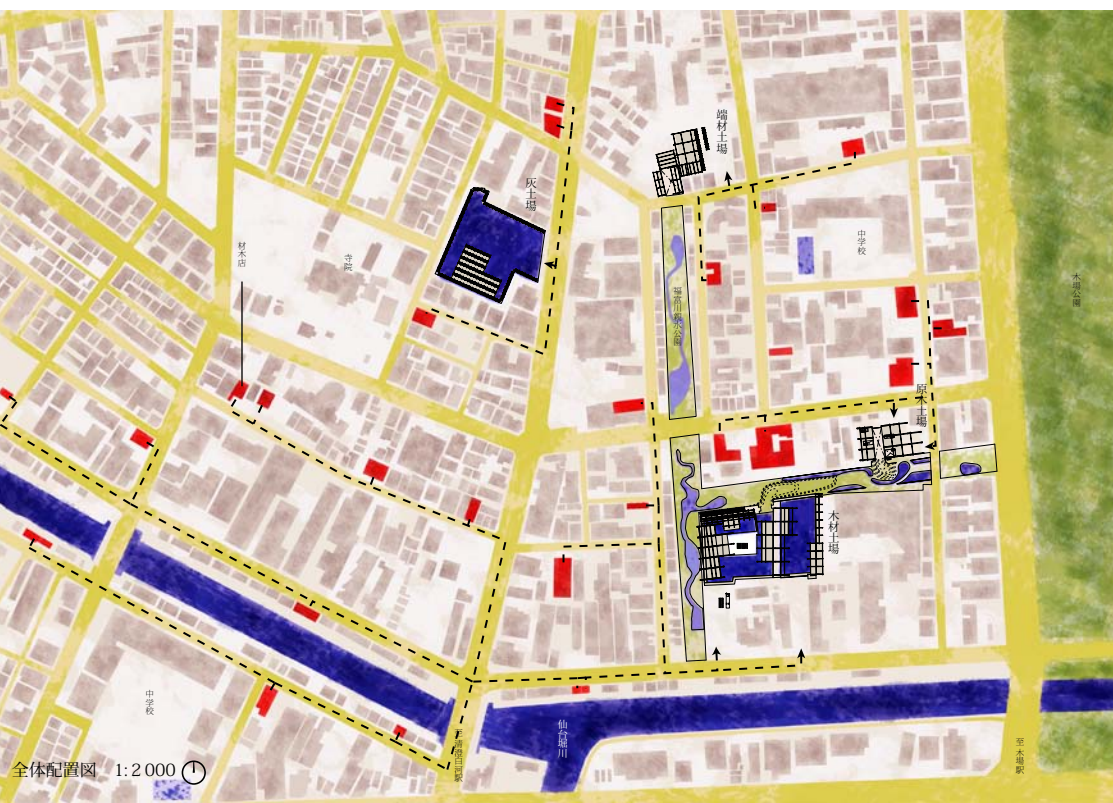
3 - 3. 過去の重ね合わせ



山間地域の林業を支えていた「土場」の存在を知る。一般に一時的な材木の溜まり場や、上流から運材した材木の陸揚げ場を指し、その付近には材を次の地点へ運ぶための場や構築物が築かれている。土場の変遷を追ってみると、生産地と消費地を川一本で結び、木が様々な人の手に渡り使われていく様子を可視化していた中継空間であったことがわかった。

3ヶ所の歴史的な土場の調査を通して、土場という中継空間の空間性を再考し、現代の都市には欠如した人と木を結ぶために必要な場と捉え空間形態を抽出する。

4. 提案 現在に生きる場となるために



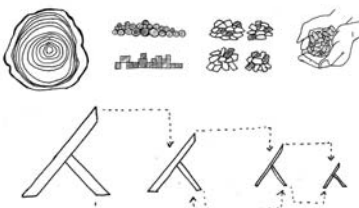
(1) 堀跡を親水公園で結ぶ (2) 既存材木店が材木を集める (3) 材が移ろうためのスケール設定



既存の親水公園は、4つの堀跡を結ぶアプローチ動線として機能するよう再計画する。堀跡の周縁は、親水公園と土場を繋ぎ、そこを巡り歩く人々に常に材木が運ばれ、様々な人の手に渡り使われていく様子を伝える見学路として機能する。



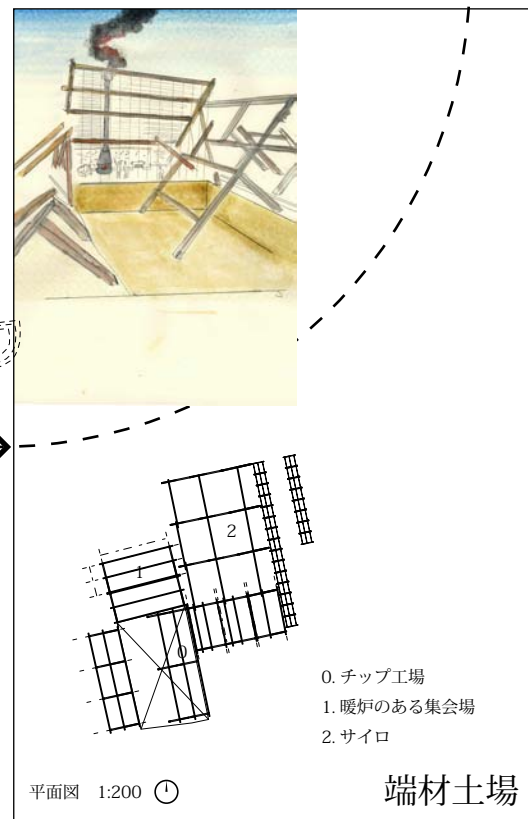
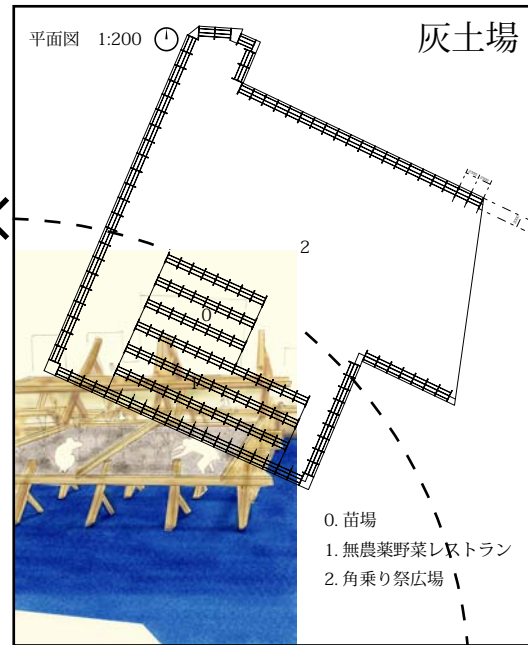
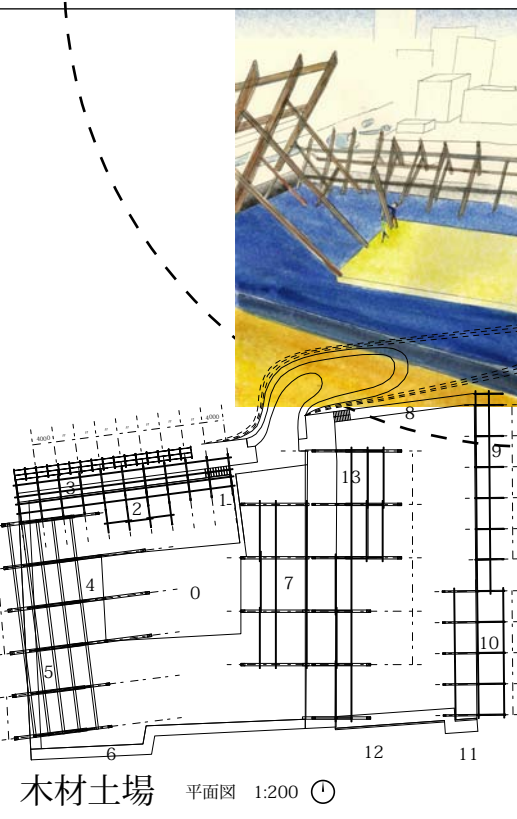
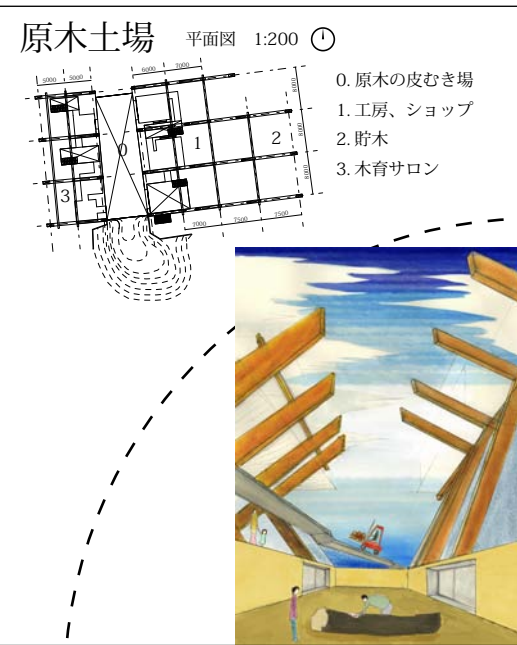
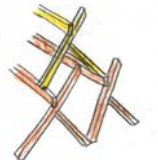
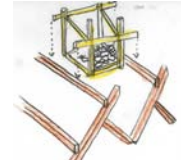
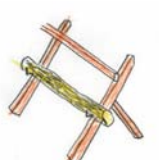
本場には、貯木場の新木場への移転後も細々と営業を続ける材木問屋が数多く点在する。既存材木店からの材木選搬経路を想定し、各廻跡に材が集散する土場を形成します。

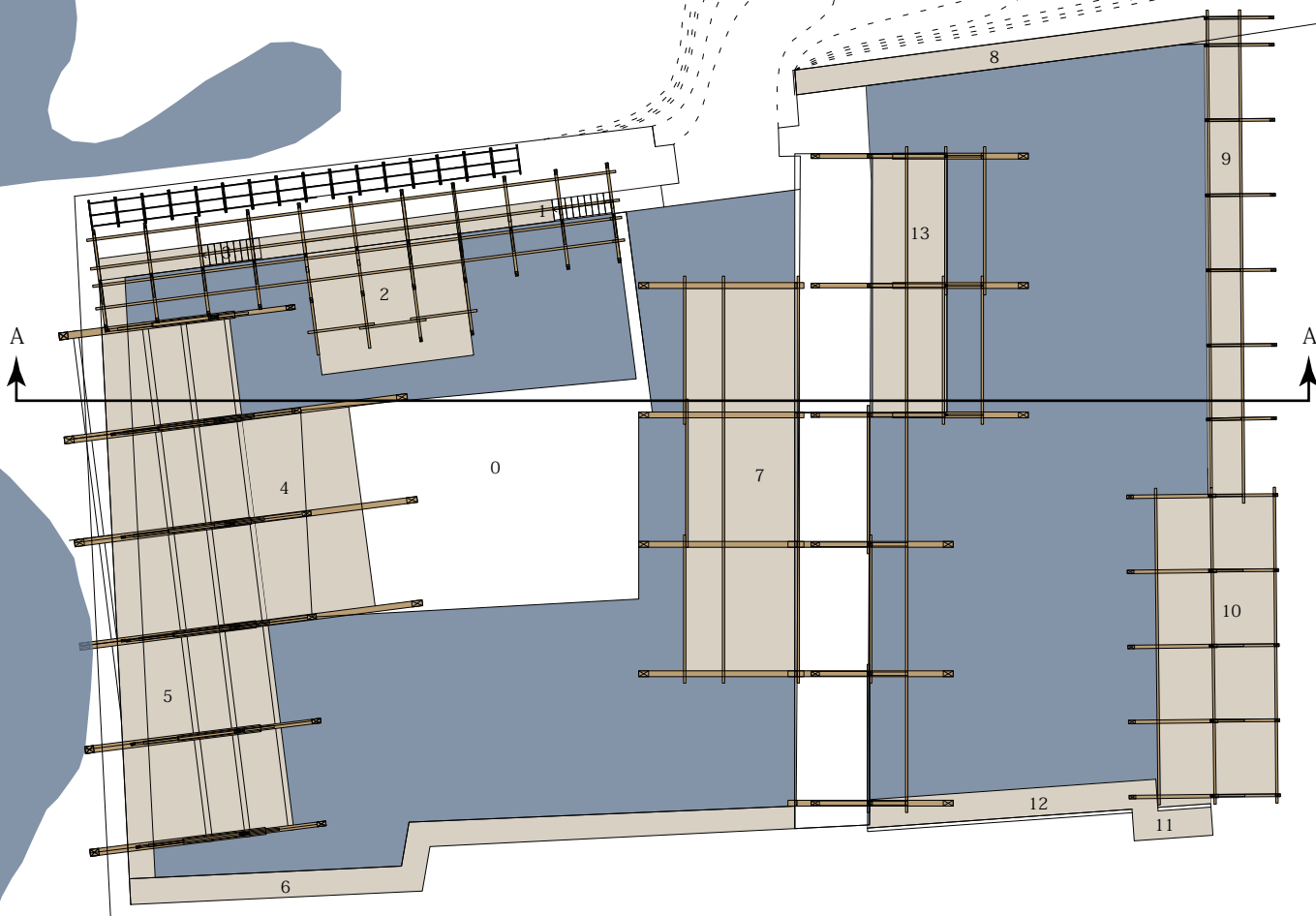


各廻跡には、原木から木材、端材、燃料・肥料まで、異なるスケールの材が集められる。各廻跡の構築物は、集められる材の大きさに合わせた断面寸法で構成され、段階的に小さくなっていくモジュールが設定されているため、修繕の際には材が取り替えられながら街一帯を移ろう。

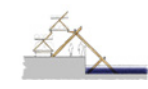
(4) 材の集散性を起こす仕掛け

- (い) 立てかけ
- (い) 横枝かけ
- (は) ぶら下げ
- (は) 積み上げ

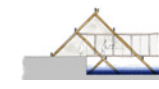




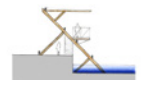
1. 動線



2. 工房



3. 動線



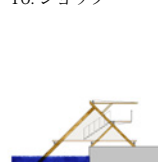
4. ショップ



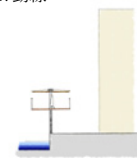
6. ギャラリー



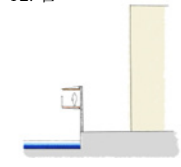
10. ショップ



11. 動線



12. 堰



13. 角乗り祭りギャラリー



木材土場 A-A' 断面図

5. 木育サロン

7. DIY 塾

